

甲第152号証2

2018.6.10

美浜発電所基準地震動策定における問題点

－地盤構造モデルについて－

図幅 ・ 註

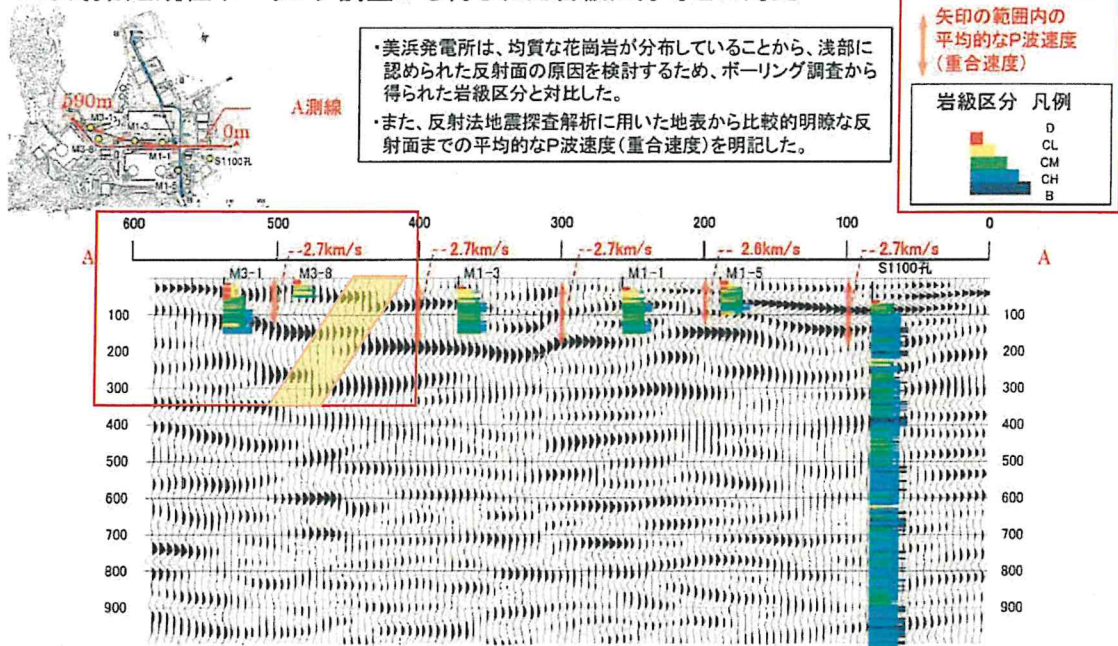
赤 松 純 平

1. 2. 浅部地下構造の評価(反射法地震探査)

第235回審査会合
資料再掲

37

■ 反射面と既往ボーリング調査から得られた岩級区分等との対比



■ 反射面の位置と岩級区分の境界が一致するようにも見えることから、反射面の原因として、風化の影響等による岩級の違いが反射面に現れている可能性があると考えられる。

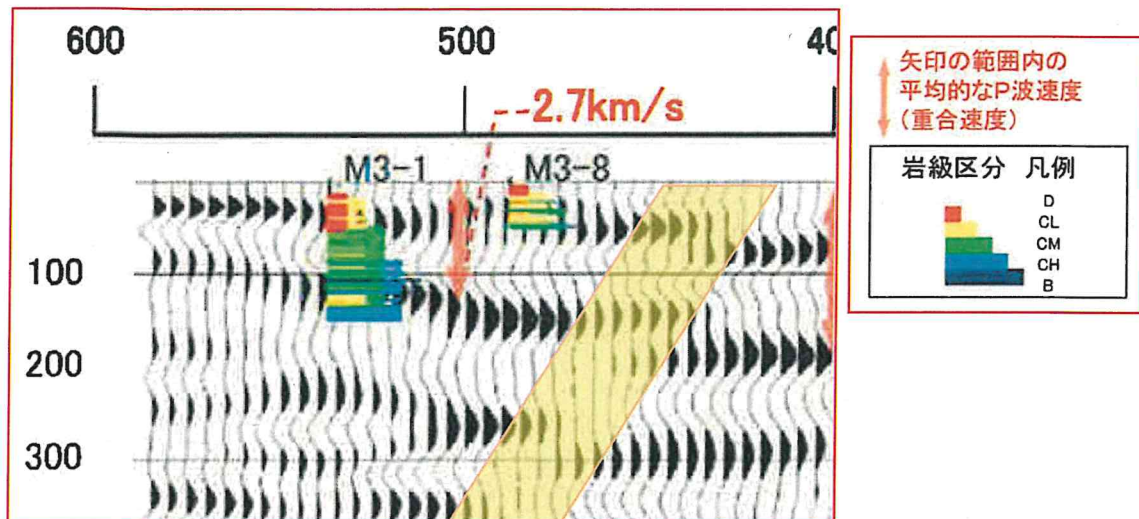


図17 反射法地震探査結果の反射面と岩級区分の対比 A測線.

上図の赤枠部分を拡大して下図に示した。3号炉に近接するM3-1孔では、標高約-130mまでの平均的なP波速度は2.7km/s(重合速度)とされている。黄色のマークで示した位置は、反射面の食い違いから推測される逆断層構造 [17 芦田(2018)の指摘]。 [7 (37)]を引用、加筆。

1. 2. 浅部地下構造の評価(反射法地震探査)

第235回審査会合
資料再掲

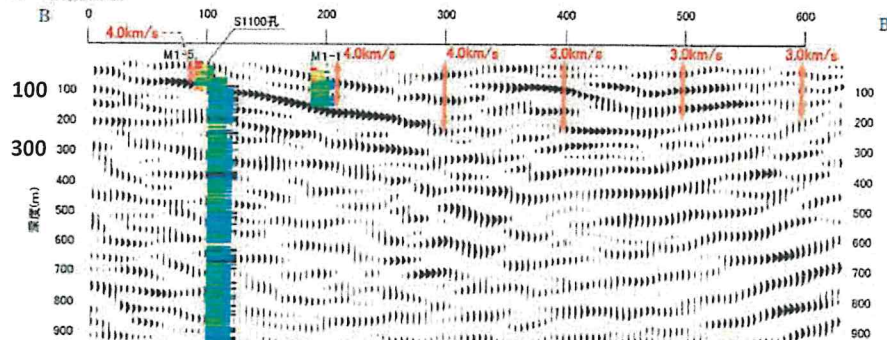
38

■ 反射面と既往ボーリング調査から得られた岩級区分等との対比



・美浜発電所は、均質な花崗岩が分布していることから、浅部に認められた反射面の原因を検討するため、ボーリング調査から得られた岩級区分と対比した。
・また、反射法地震探査解析に用いた地表から比較的明瞭な反射面までの平均的なP波速度(重合速度)を明記した。

矢印の範囲内の
平均的なP波速度
(重合速度)



■ 反射面の位置と岩級区分の境界が一致するようにも見えることから、反射面の原因として、風化の影響等による岩級の違いが反射面に現れている可能性があると考えられる。
■ 距離300m付近までは、反射面が確認されるが、それ以北においては若干不明瞭で速度も遅くなっている。

図18 反射法地震探査結果の反射面と岩級区分の対比 B測線。重合速度は3.0～4.0km/s。
[7 (38)]を引用、加筆。

1. 2. 浅部地下構造の評価(反射法地震探査:S波)

第235回審査会合
資料再掲

39

■ 距離300m以北において、反射面が若干不明瞭で速度も遅くなっていることを分析するために、美浜の破砕帯調査を目的とした反射法地震探査結果(S波)※を確認した。

※) 平成25年9月11日第2回美浜発電所敷地内破砕帯の調査に関する有識者会合 現調3-1

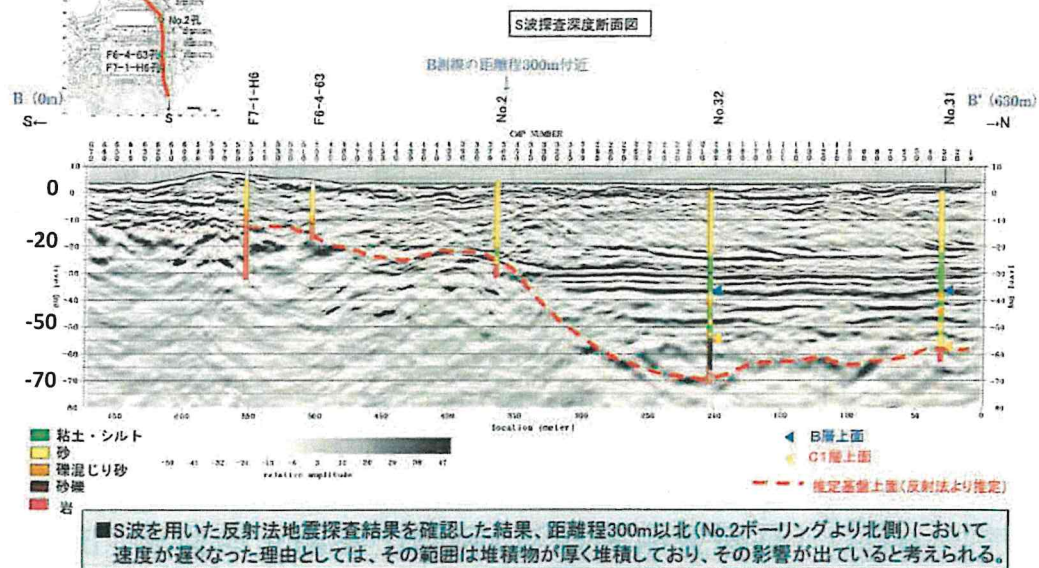


図19 反射法地震探査結果(S波)B測線。厚さ20～70mの土質堆積層が示されている。
[7 (39)]を引用、加筆。